

1. 評価結果概要表

作成日 2007年5月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0871200218
法人名	医療法人 永慈会
事業所名	グループホーム ひたちの森スマイルハウス太田
所在地 (電話番号)	茨城県常陸太田市磯部町90-1 (電話) 0294-80-2230

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年5月18日	評価確定日	平成19年11月21日

【情報提供票より】(平成19年4月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 14 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤16人, 非常勤8人, 常勤換算21人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	2階 建ての 1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,400 円	その他の経費(月額)	14,700 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(20万 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1425 円			

(4)利用者の概要(4月25日現在)

利用者人数	23 名	男性	8 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	10 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低	58 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	永井ひたちの森病院・大山病院・ブレインピア南太田・藤井病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑が多く、空気がとても澄んでおり自然豊かな環境の中にある。ホーム内は明るい雰囲気であり、入居者は思い思いにゆつたりのんびり過ごされていた。デイサービスに通っている方や、ユニット間での交流が盛んである。職員の入居者に対しての言葉遣いや対応の仕方は、丁寧でありその人を思いやる姿勢が感じられた。ホーム内の催し物には、近隣住民の参加がある。ボランティアや職場体験の受け入れも行っており、地域との交流に積極的に取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された、入浴時間については管理者や職員間で話し合い夜間でも入浴できる体制が整えられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全体会議を通じて、職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの活動状況や事故報告、ホームの抱えている問題などをテーマにあげ討議し、サービスの向上に努めている。今後、運営推進会議の中で消防訓練を行う予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の方とホームの間では良い関係が築けており、意見や要望に対して対応できる体制作りができています。今後、家族を交えて行事を企画していく予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの行事には、新聞の折り込みを活用し積極的に呼びかけており、地域住民の参加があり楽しく賑やかに催されている。また、ホーム側から出かけ、地域の小学校の運動会や幼稚園の遊戯会に参加している。日常的にも、近所の方が遊びに来たりと良い関係が築いている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念をあげて、地域と自由に交流を持ちその人らしい生活が継続できるよう援助している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、理念の復唱をし理念の共有に取り組んでいる。また、理念を名札に携帯しいつでも確認できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流は濃厚であり、色々なイベントなどに地域住民の参加がある。近所の方達の来所が多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組まれていた。取り組むことで、あらたな気づきを得ることができていた。	○	スタッフに、外部評価の目的がうまく浸透していない。自己評価は、スタッフを交えて行っているが、評価の目的を理解したうえで、今以上にスタッフの意見を取り入れながら、取り組んでいただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況、事故報告、ホームの抱えている問題点などをテーマに話し合い、報告書を作成し、対応策を検討しサービスの向上に努めている。また、家族会と並行することで本来の家族の意見を積極的に取り入れるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口に出向き、色々なアドバイスをうけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	スマイル通信を月1回ご家族に送り、入居者の状況を伝えている。家族の面会は非常に多いので、訪問時に報告を行ったり、定期的に電話で報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通して、家族同士の連携を強くしている。家族とホームの個別的な面接を行う予定がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常時、3ユニット間の交流が図られており、職員は入居者の情報を共有し、馴染みの関係を作り出すことに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修も積極的に参加している。また、ホーム内では教育委員会を中心に、月1回介護知識や技術の向上を目指し、勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常陸太田市グループホーム協議会に参加し、ネットワーク作りをしている。ホームの行事に参加を呼びかけ相互訪問の機会を設けケアサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの独自性を活かし、デイサービスで慣れてから入居できる体制がある。3ユニット内で馴染みの交流が盛んに行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	炊事・洗濯・掃除・裁縫など、日々の生活の中で、入居者に教えてもらいながら、支え合う関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「生活と安全のカルテ」を活用しながら、尊厳を守るケアをしている。重度の方に対しては、家族に話を聞いて、その方の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフや家族と話し合い、お互いに意見を出しながら介護計画を作成している。細かな情報は直接スタッフから聞き取り、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じ、日々の記録やスタッフ・家族と話し合いを行い、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを利用したスムーズな入居への配慮をしている。ユニット数を活かした、馴染みの関係が維持出来るようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院を主治医としており、緊急時にスムーズな対応がとれるような配慮がある。近隣の医院や歯科医と連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では、看取りの対応はした事はないが重度化や終末期に対しての受け入れ体制が出来ている。夜間、訪問看護の対応が出来るようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に声をかけてから、居室に入るなど対応に配慮されている。記録は事務所にあり、個人情報の保護が出来ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、本人の意思や希望に沿い入居者本位の時間が提供されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の介助を要する方には、適切にスタッフが配置されており、食事の援助がおこなわれている。また、スタッフも入居者と同じテーブルを囲み楽しく食事出来るようにしている。	○	介助用のエプロンは、食事の動作に制限が出てしまう事や、家庭的雰囲気を妨げることもありうるため、今後、考慮していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や状況に応じて、夜間でも入浴出来る体制ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備をしたり、ホームで飼っている動物の世話をしたりしている。入居者の状態に合わせた、役割の提供ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物・散歩・ドライブに行ったり、1泊旅行に行ったり、全ユニットで、リンゴ狩りに行ったりと外出の支援を積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りのなか、入居者は自由に出入りしている。また、外部からの出入りの制限はない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者を交えた訓練を行っている。マニュアルを作成し速やかに行われるように工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者のサービスを利用している。また、本人の希望も聞き入れており、飲酒もできる。食事量や水分量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や温度の調節に配慮されており、また季節にあった飾りつけを行う等、居心地よく生活できる空間作りがされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使っていた馴染みの物の持ち込みが可能である。冷蔵庫や仏壇などを持ち込み、入居者が居心地よく過ごせるように配置されていた。		